

主題：  
諸召会における失敗、召会の墮落、  
召会における勝利者、召会の回復、召会の各段階

メッセージ 12

召会の各段階

(1)

エペソに在る召会

聖書：啓 2:1-7

- I. 啓示録第 2 章と第 3 章の七つの燭台によって表される七つの召会に関して、わたしたちは三つの事を理解すべきです：
- A. これら七つの召会は、その当時に実在した実際の召会でした。
  - B. これら七つの召会は、召会の七層の歴史を表しています（参照、啓 2:1 のフットノート 1）。
  - C. 各召会の状態は、召会の七層の歴史に同時に存在します。
- II. 啓示録第 2 章と第 3 章は、わたしたちがわたしたちに見せているのは、わたしたちが召会の正統性に戻るために何を行なう必要があるかということです。すなわち、何が実際に主を喜ばせるのか、何を主は罪定めするのか、何が召会のための主の実際の道であるかということです：
- A. 人が真に主の道を歩きたいなら、啓示録第 2 章と第 3 章を読まなければなりません。今日、召会に問題があるので、啓示録はわたしたちに、何を行なうかを告げています。もしあなたがこれら 2 つの章で道を追い求めないなら、どのようにクリスチャンになるかわかりません。
  - B. 七つの召会に対する七つの手紙は、主で始まり、勝利者に対する召しで終わっています。勝利者は正常で通常の人です。不正常な時に不正常でない人が勝利者です。
  - C. 今日、人々は墮落し、失敗し、絶えず下って行きますが、勝利者は神のみこころに回復され、召会の正統性に戻っています。
- III. エペソに在る召会に対する主の書簡における四つの要点があります。それは愛、命、光、燭台です——2:1-7：
- A. わたしたちは初めの愛としての主を離れないで、初めのわざを行なわなければなりません。「しかし、そうしないなら、わたしはあなたの所へ行く。そして、もしあなたが悔い改めないなら、あなたの燭台をその所から除き去る」——4-5 節：
    - 1. 初めの愛を離れることは、各時代を通しての召会の失敗の源、また主要な原因です。
    - 2. コロサイ人への手紙は、わたしたちのキリストが万物のうちで第一位でなければならないと告げています。彼は首位でなければなりません——1:18

後半。

3. 初めの愛を回復することは、すべての事で主イエスを第一と考えることです。わたしたちがキリストを生活の中ですべてとするなら、これは、わたしたちが初めの愛を失うことに勝利したことを意味します——参照、詩 73:25。
4. 初めの愛を失うことに勝利することは、キリストの愛に押し迫られて、主のために生きるだけでなく、主に生きることでもあります——Ⅱコリント 5:9, 14-15 :
  - a. 主に生きることが意味するのは、わたしたちが完全に主の抑制、指示、管理の下にいることによって、彼に喜ばれようと懸命に努めることであり、彼の目的と目標だけに関心を持つことです。
  - b. 主に生きることが意味するのは、わたしたちが主の指示と抑制の下にいること、彼の要求を満たし、彼の願いを満足させ、彼が意図することを完成することです。
5. イスラエルの失敗は、彼らが神、生ける水の源泉を捨てたことであり（エレミヤ 2:13）、召会の墮落は、初めの愛を離れることです。実は、初めの愛を離れるとは、ただキリストを離れることであり、彼をすべての事で第一としないことです。
6. 初めの愛は、すべての事で（大きな事でも小さな事でも）、神、キリスト、主、わたしたちの主人を第一の方とすることです。わたしたちは主を首位としていないすべての事を赦してくださるよう、彼に求める必要があります。
7. 「初めのわざ」は、「初めの愛」から出て来る働きです——啓 2:4-5 :
  - a. わたしたちはキリストの裁きの座の前に立つとき（Ⅱコリント 5:10）、確かにわたしたちの働きの大きさや量のゆえに称賛されるのではありません。主が査問するのは、わたしたちがどれほど多く彼に対する愛のゆえに行なうかです。
  - b. 愛によって動機づけられる働きだけが、金、銀、宝石です（Ⅰコリント 3:12）。聖徒たちが主に対する初めの愛で満たされる時、彼らが行なうすべては主に対する彼らの愛のゆえであり、「愛の労苦」です（Ⅰテサロニケ 1:3）。
  - c. わたしたちはイスラエルの子たちのように神を礼拝し、神に仕えても、嘆きに満ちて行ない、何の喜びもなく要求されてこれらのことを行なう可能性があります——マタイ 3:14。
8. 主が召会の燭台を除き去るとは、今後、召会にもはや外側の活動や行動がないことを意味するものではありません。それが意味するのは、召会がもはや神の忠信な証しになることができないということです :
  - a. もしわたしたちが主に対する初めの愛を離れ、悔い改めず、初めのわざを行なわないなら、なおも地方の立場に立っていても、金の燭台によって予表される三一の神の実際と証しを失っている可能性があります。
  - b. 燭台を除き去ることが意味するのは、神の御前で召会の地位が失われるということと、召会が自分の証し、すなわちイエスの証しを失っているということです。召会は自分の地位を失ってしまい、主の証しの召会であるこ

とで不適格とされます。

B. わたしたちは主に対して初めの愛を持つなら、ニコライの者たちのわざを憎みます。これを主も憎んでいます——啓 2:4,6 :

1. 「ニコライの者たち」というギリシャ語は二つの言葉から成っており、一つは「征服する」あるいは「勝利を得る」を意味し、もう一つは「普通の人」、「世俗の人」、あるいは「平信徒」を意味します。
2. 「ニコライの者たち」は、自分自身を一般の信者より高いと見なしている一組の人々を指しているに違いありません。これは疑いもなく、カトリックとプロテスタントによって採用され確立された聖職者階級制度でした。主はこれらのニコライの者たちのわざ、行為を憎んでいます。わたしたちは主が憎むものを憎まなければなりません。
3. 正当な召会生活には、聖職者も平信徒もあるべきではありません。すべての信者は神の祭司であるべきです（啓 1:6. 5:10. I ペテロ 2:5,9）。中間階級は神のエコノミーにおける普遍的な祭司職を破壊するので、主はそれを憎みます。

C. エペソに在る召会のように良い、秩序正しい、正式な召会生活の中で、わたしたちは命の木としてのキリストを食べることを維持する必要があります——啓 2:7 :

1. すべての事でキリストを首位とし、毎日、彼を命の木として享受するなら、わたしたちはすばらしい、勝利を得たクリスチャンとなり、召会生活はわたしたちにとってパラダイスとなります。
2. 神の当初の意図は、人が命の木から食べるということでした（創 2:9,16）。墮落のゆえに、命の木への道は人に対して閉ざされました（3:22-24）。キリストの贖いを通して、人が命の木（人の命としてのキリストにある神ご自身）に触れることができる道が、再び開かれました（ヘブル 10:19-20）。
3. しかし召会の墮落の中で、宗教とその知識が忍び込んできてキリストにある信者たちに、命の木としての彼を食べさせないようにしました。ですから、主は勝利者たちに、神のパラダイス（新エルサレム）にある命の木としての彼ご自身から、褒賞として食べさせると約束したのです。これは、彼らが宗教とその知識から離れ、ご自身を享受することへと戻るようにとの励ましです。
4. 主のこの約束は、神のエコノミーにしたがって、召会を神の当初の意図に回復します。主が勝利者に行なってもらいたいのは、召会全体が神のエコノミーの中で行なうべきことです。召会の墮落のゆえに、主は神のエコノミーを完成するために来て勝利者を召し、召会に置き換えました。
5. 命の木を食べること、すなわち、わたしたちの命の供給としてキリストを享受することは、召会生活の主要な事柄であるべきです：
  - a. 召会生活の内容は、キリストを享受することにかかっています。わたしたちが彼を享受すればするほど、その内容はますます豊かになります。しかし、キリストを享受することは、わたしたちが初めの愛をもって彼を愛す

ることを必要とします。

b. もしわたしたちが主に対する初めの愛を離れるなら、キリストに対する享受を失い、イエスの証しを失います。その結果、燭台はわたしたちから除き去られます。

c. この三つの事柄（主を愛すること、主を享受すること、主の証しとなること）は並行します。

D. 愛は命と関係があり、命は光と関係があります。愛、命、光は、三一です：

1. わたしたちはキリストをすべての事で第一とするなら、初めの愛を持ちます。わたしたちはこの愛を持つなら、命を持ち、主を享受します。わたしたちが命を持つなら、この命はわたしたちの光となります——ヨハネ 1:4. ピリピ 2:15-16。

2. 燭台（召会）の光は個人的にではなく団体的に、召会時代の暗い夜に輝き出ます——参照、啓 2:5 後半。

E. わたしたちはキリストをわたしたちの愛、命、光として享受するなら、わたしたちの地方で、燭台の輝きのように、イエスの証しを保ちます——参照、12:17 後半。

F. わたしたちは英語のアルファベットの「L」で始まるこれら四つの言葉、すなわち、「愛 (love)、命 (life)、光 (light)、燭台 (lampstand)」を覚えておく必要があります：

1. わたしたちはあらゆる面で、またあらゆる事で主イエスを首位として、初めの愛を回復しなければなりません。

2. そうすれば、わたしたちは彼を命の木として享受し、この命は直ちに命の光となります——ヨハネ 8:12。

3. そしてわたしたちは日常生活において、団体的に燭台として輝いているでしょう。そうでなければ、燭台は個人的にわたしたちから、また団体的には召会から除き去られるでしょう。

4. わたしたちが今日すべての事でキリストを第一とするなら、愛を持ち、彼を命として享受し、彼を光として輝かし出し、輝く燭台となって、イエスの証しとなります。これは最終的に、この時代だけでなく、それにもまして来たるべき時代に、わたしたちの褒賞となります。千年王国で、わたしたちはキリストを神のパラダイスにあるわたしたちの褒賞として享受するでしょう。